

令和6年2月13日

## 南の風 OQT (オリンピック女子最終予選) 特集号 I

南部地区ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

### 女子日本代表やりました！！！！

### パリ行きの切符を見事掴みました！！！！

カナダとの激闘を制し(86-82)、2勝1敗でグループAを第一位で突破した女子日本代表は、パリ五輪に出場することが決定しました！！！！

第一戦でスペイン(世界ランク4位)に、86-75で勝ったあと、ハンガリー(世界ランク19位)に、75-81で敗れ1勝1敗となりました。最終のカナダ(世界ランク5位)戦にパリ行きが懸ります。

カナダに勝てば、文句なしにパリ行き決定、負けた場合はハンガリー対スペイン戦で、ハンガリーが勝てば日本のパリ行きが決まります。(日本が直接対決でスペインに勝っているため)

ハンガリーに敗れたあと、一日休息日がありカナダ戦になるのですが、自主練習が終わった後のミーティングが恩塚ヘッドは次のように語りました。

「ハンガリー戦でスイッチディフェンスに対するカウンターが停滞してしまった要因について、コーチ陣みんなで分析してもう一度勝ち筋を整理し、選手たちに伝えました。次に、その案について選手がフィードバックし、チーム一丸になって同じページで戦える準備を整え、最後のカナダ戦に臨みます」

同じページで戦える準備とは何かというと、恩塚ヘッドはよく「on the same page」という言葉を使いますが、「全員がコート上で同じ考え、同じプレーで連動して戦うこと」ということです。

「走り勝つシューター軍団」を掲げている日本に対し、もちろんカナダは3Pシュートを警戒してきます。林 咲希選手(富士通レッドウェーブ)は、「狙えるところを狙うだけだったので、打てないところが出てくるのも想定していました。それでも宮崎(早織)選手や山本選手がプッシュしていたので、そこが良かったです」とガード陣が積極的に仕掛け、常に先手を取って攻めたことが功を奏します。最後は日本のシュートもなかなか決まりませんでした。それでもディフェンスで粘り、相手のミスを誘いリードを守り切ります。最後は山本選手がフリースローを1本決めて4点差にし、カナダのシュートが外れたボールを馬瓜エブリン選手(デンソーアイリス)が掴んで試合終了。86-82で勝利し、歓喜の輪を作りました。

山本選手は「この試合に勝って、自分たちの手でオリンピック出場を決められたことをうれしく思っています。今日の試合は全員でつないで、全員で戦えたことでこのような結果が得られたので本当にうれしいです」とチームワークの勝利を喜びました。

恩塚ヘッドコーチは「日本でも、現地でもたくさんの方に応援していただいて、その力を持って勝ち取ったパリ2024オリンピックの切符をたいへんうれしく思っています。カナダは素晴らしく、個々のスキルもフィジカルも非常に高いチームでタフなゲームでした。私たちはチームで戦い抜くことを40分間やり通せたことが勝因でした」と感謝し、今大会を締めくくりました。

次号では、女子日本代表アカツキジャパンのOQTでの戦いぶりを振り返ります。